

## 保育計画成果報告書

法人名等	学校法人わかば学園
施設名	閑上わかばこども園
報告者（役職）	佐々木 一十郎（園長）
住所・連絡先	宮城県名取市閑上西2丁目12番地
	☎ 022-398-9136 E-mail wakabacko@gmail.com

### ○タイトル（保育計画）

心と体を育む～自立・協調・挑戦へ導く保育～

### ○主な助成備品

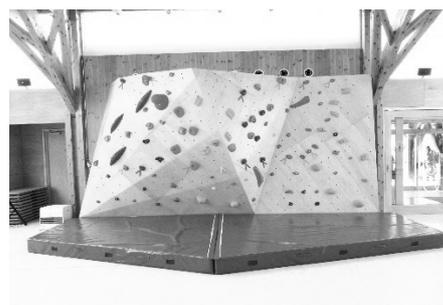
ボルダリング、マット

## 1. 保育計画策定の目的

昭和30年に誕生した「閑上わかば幼稚園」は、東日本大震災で壊滅的な被害を受け、休園を余儀なくされました。その後、内陸部へ移転し「美田園わかば幼稚園」を開設。震災から11年、ようやく「閑上」の地へ戻ってくることができました。復興事業という制約のなかで、限られた敷地に園舎を再建したことと、認定こども園に移行したことにより定員数が増えたために、十分な面積の園庭がとれず運動場の確保に苦慮していました。

このようななか、2020年東京オリンピックから新たにスポーツクライミングが公式競技に加わり、中でもこどもたちでも取り組めるボルダリングは、遊びの要素と体幹を鍛える運動と挑戦する勇気と意欲を掻き立てる素晴らしい競技です。こどもたちには日常のなかでボルダリングを通して、考える力、集中力、自立心、協調性、挑戦する気持ちを育んでいってほしいという願いを込めて計画を立てました。

「健全な精神は、健全な肉体に宿る」と言われた通り、体力づくりという基礎の上に自立・協調・挑戦の理念を掲げ、将来幸せな人生を自らが切り開いていくことができるような、「心身ともに健康で、優しさと思いやりの心をもつ人間性豊かな」小さな人格者を育てていきたいと願っております。



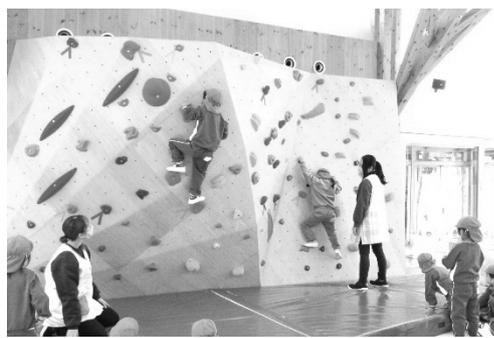
## 2. 具体的な実施内容

こどもたちは、ホールに完成した彩り豊かなボルダリングを見て、「触りたい」「登ってみたい」という気持ちが大きくなり、登れる日を心待ちにしていました。実際行う前に、当園のボルダリング施工者（ボルダリング選手でもあります）に使い方を教えてもらい、安全に遊ぶことができるようルールを決めて進めました。

3歳児は、好きな色のホールドに手を伸ばし、慎重に進む姿が見られました。怖さや不安な気持ちに寄り添い、先生に支えてもらったり、見守ってもらったりすることで、意欲へつながっていきました。少しでも登ることができたことを認めてもらい、先生や友だちと喜びを共感しあい、不安な気持ちが楽しさに変化していきました。

4歳児は、勢いよく登ってみようという挑戦する気持ちがありました。一番上のゴールを目指し、ホールドを掴みますが、自分の体重を支え次のホールドを探すことに難しさを感じていました。先生に手伝ってもらったり、声をかけてもらったりすることで、一つひとつ上へと進めていきます。そのような友だちの姿を見て、まわりの友だちが応援してくれるようになりました。応援が力となり、諦めず自分の力で挑戦する姿が多く見られました。

5歳児は、同じ色だけを選んで登ったり、斜面からスタートしたり、より難しいことに挑戦する楽しさを感じながら取り組んでいました。手や足の置く場所を考え集中して行うことができ、降りる時もあせらず一歩ずつ確実にできました。日々の活動から体幹が鍛えられて安定して登ることができました。また、ルールを守って行うことをしっかり意識し、友だちと声をかけ合いながら取り組んでいました。



## 3. その成果と評価

ボルダリングは全身を使って行うため、こどもたちの体幹が鍛えられ運動機能の向上につながりました。挑戦できた喜びや思うようにできなかった悔しさ、自分で登っていく楽しさなど、様々なことを経験したこどもたちは挑戦しようとする意欲が強くなりました。そして、先生や友だちに見守られながら頑張ることで、達成感をより大きく感じられたようです。ボルダリングを通して、自分で考えて進める力や目標に向けて取り組む集中力、ルールを守る協調性など、園児一人ひとりにとって心と体の成長につながりました。



#### 4. 今後の課題と展望

ボルダリングを経験することで、様々な面から子どもたちの成長が見られ、体力づくりにも力を入れることができました。今後も日々の保育で活かしながら、継続した取り組みができるよう保育計画を作成していきます。そして、子どもたちがいつでも意欲的に挑戦できるような環境作りを考え、より身近なものになるよう保育を展開させていきたいと思えます。

助成していただいたことに感謝し、これからもずっと大切にに使わせていただきます。ありがとうございました。

以上